



やまゆり

学校だより

令和6年3月8日
95号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行する一
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標 「豊かな心の育成」

別れの悲しさは、出会えた証 第77回卒業式

卒業式 公的に人との別れを創り出す

「公的な」硬い言葉ではあるが、「私的」ではなく、道志中学校の在校生・卒業生・保護者・教職員・地域の方々の全員で義務教育終了の節目を祝い、また、別れの式をする。

卒業にあたって親やお世話になった先生方、後輩への感謝の気持ちを表す事の重要さをもう一度しっかり考えたい。卒業式は、気の合う数人の友人だけの「集い」でも「会」でもない。卒業とは、閉じた社会からの卒業でもある。だからこそ、卒業式で社会人としての感覚と態度を身につける機会と捉えたい。

「感謝の気持ちを卒業式で公的に表す」

- ① 心と服装をしっかりとする。
- ② 起立・着席は、一斉に整然と。
- ③ 礼は、最敬礼で。(45度体を傾ける)
- ④ 返事をしっかりとする。
- ⑤ 群読・合唱で感謝の心を表現する。
- ⑥ 多様な他者を尊重し、共感し、気遣う。

①②③番は、社会人としての心構えが表れるところ。心構えは、服装や態度に表れる。保護者・教職員・来賓への感謝の心を持つという点で大事。

「卒業証書授与」は個人にするもの。つまり、保護者としては我が子にスポットライトが当たる瞬間。そこでの態度は子育てや成長が分かる瞬間。そこで④番の返事の大切さ。一年間お世話になった担任の呼名にしっかり返事をする。学年職員の呼名に「ハイ！」と返事することは、この三年間の感謝の全てと考えて欲しい。3年生が 個人で感謝を声で表現できるのは、ハイ！ しかないのである。

⑤は、学年全体で「思い」を言葉にのせて伝える最後の場面。卒業生に与えられた時間は約20分弱。群読・合唱は、集団の力の結晶。道志中三学年の文化の象徴。「思いを伝える！」

⑥は、全国には様々な事情や境遇の生徒や保護者がいる。上記の事も、思えばできる人もいるが、現実にはその思いを実現できない人もいる。それぞれの立場や状況の中で、ベストを創ることが重要であり、仲間として思いやり、気遣うことが大切である。

「来賓や祝辞にも感謝の気持ちをもつ」

来賓の方々は、卒業生の式のために来て下さっている。社会通念上の「関係」を大切にしているのだ。個人的に面識がないので関係ない。それは稚拙な考え方。義務教育を終了するとは、社会人としての考え方を身につけるということ。皆仕事を休んで来てくださっていることを理解してほしい。それが理解できるのであれば、挨拶などは率先して自分から行き、お客様をもてなす気持ちで対応することが重要である。来賓対応は校長や教頭に任せておけば良いレベルの考え方は、社会からは認められない。来賓の期待に応える、「道志中に来て良かった」「仕事を休んで良かった」そう思って頂けるように一人一人が努力したい。そういえば、富士学苑高校は卒業生が来賓対応をしていた。

祝辞・祝電には、進学先の高校や小学校時代の先生方の名もある。関係を大切にすること。そして、当たり前前にそれを実行できる人間。「式の恩は、式で返そう！」

「卒業式・それぞれの思い」

過去に勤務していた学校の三年生の文集にこんな文章があった。

私は〇〇学校が嫌いだった。一年生の時、平気で壁や学校の物に落書きをする人や、授業中に先生の声が聞こえないほどざわついている教室に、激しい苛立ちを感じた。「ガン！」と大きな音を立ててクラスの壁が蹴られたとき、口から心臓が飛び出しそうなほど驚いたことを覚えている。大きな音もさることながら、こんな学校があるのかと……。

しかし、昨年の卒業式では、来賓の方々からも高く評価される卒業式を挙げてきた。特に、最後の「合唱」では、保護者の方々も涙する場面も見られるほど素晴らしいものだった。卒業の節目に、最後の力を振り絞って、先生方や在校生、地域の方々に〇〇中学校の「文化」の高さを見せてくれた。本当に有難い、最後の先輩としての姿であった。

前述の生徒の一年後の文集には、

三年が過ぎるのはあっという間だ。しかし、その短い時間の中で私はたくさんの人の優しさに触れた。〇〇中学校で過ごした三年間は、私にとって本当に大切な宝だ。

「こんなに素晴らしい学校に通えたことを、私は、心から誇りに思う」であった。

「式場準備から学ぶこと」

卒業式では、当たり前前に会場がきれいに、しかも整然とした環境になっている。昨年の三年生の晴れの舞台づくりを任せられたのは、今年卒業するみなさんだった。

一・二年生全員で約2時間。この準備の事を忘れないで欲しい。卒業式の会場を見たとき、後輩や先生方が自分達のために大変な労力を使ってくれたということを感じて欲しい。「感謝」とは、一所懸命に準備した経験のある人が、実感として感じられる感情だと思う。いい加減な気持で準備・生活していたのでは得ることのできない感情だ。

良い思いをする人の影には、必ず裏方がいる。これは、皆さんがなにげなく生活している裏に「家族」の方々の必死の努力があることと同じである。

道志小中の体育館は、13年前東日本大震災の年に、卒業式に間に合わせて完成させた。当時3億7千万円もの費用を投入し、卒業式に間に合わせて工事したのだ。

昨年の準備からもたくさんのことが学べた。是非、思い出して会場を見渡して欲しい。そういうものの見方・考え方を大人というのです。

「今の環境からの卒業」(過去に出会った生徒の卒業の文章)

「人間」と書いて「裏切る者」そう思っていた。でも今は「人間」と書いて「信頼」と読むと思っている。そして精いっぱい自分に偽りが無い様に生きたいと思う。

私は今施設にいる。そして施設に来て良かったと思う。親元を離れて全く知らない他人と暮らす事で人の事を考えたり、自分の力で自立するという事を深く考えたりするようになった。また、親元を離れた事で、世間の厳しさや家族の大切さを改めて実感した。

私は人に恵まれていると思う。何があっても最後まで支えてくれ、見捨てないでいてくれる先生方。どんな状況でもいつも隣にいてくれた親友。私を産んでくれて育ててくれている両親。楽しい事、苦

しい事、すべてを一緒に過ごしてきたクラスのみんな。沢山喧嘩して迷惑ばかりかけても支えてくれる施設の職員。苦楽を一緒に過ごしてきた施設の仲間。陰ながらいつも心配してくれているケースワーカー。一緒にいて幸せだと思える大好きな人。みんないつも本当にありがとう。

私は、人と人との信頼は大切だと思う。上辺や形だけのことばでは信用されないと学んだ。

私は、将来今いる施設の職員になりたい。嫌な思いをする子どもが一人でも減るように。そして今の施設に恩返しをする為に。また親孝行できるように立派な大人になりたい。そして、人と人が支え合って生きて行けたら良いと思う。

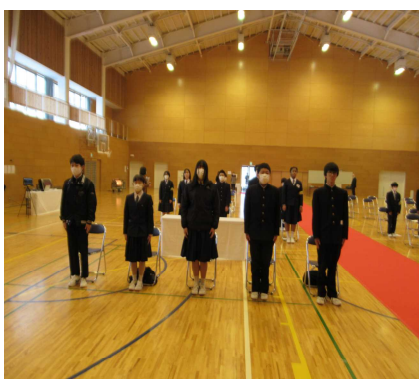
私に関わってくれている方々。本当にいつもありがとう。そして、クラスのみんな大好き。施設のみんなもいつも本当にありがとう。これからもみんなと成長して行こうね。本当にありがとう。

卒業とは、始まりでもある

良い別れは、良い出会いを創る



今日は、卒業式の予行練習を全校で行いました 練習からしっかりした態度でした



本日、3年生が「謝恩会」を開いてくれました

お世話になった先生方にメッセージと言葉を添えて感謝の気持ちを伝えてくれました



賞状伝達式受賞者一覧

第67回山梨県小中学校創作力くらべ

中学校B部門 支部入選 佐藤 愛維 さん【賞状】
 山口 結友 さん【賞状】
 山口 優 さん【賞状】



第73回南都留地区小中学校教育祭書きぞめ大会

特選 1 学年 入井 垂穂 さん【賞状】
 佐藤 愛維 さん【賞状】
 山口 結友 さん【賞状】
 山口 優 さん【賞状】
 渡辺 華帆 さん【賞状】

2 学年 池谷 圭胡 さん【賞状】
 入井 祿太 さん【賞状】
 加藤 輝 さん【賞状】
 佐藤 佳太 さん【賞状】
 水越 三代 さん【賞状】

3 学年 佐藤 紗名 さん【賞状】
 佐藤 舞桜 さん【賞状】
 佐藤 優有 さん【賞状】
 白井 絢花 さん【賞状】
 山口 桜愛 さん【賞状】



第73回教育祭県下小中学校書きぞめ大会

特選 1 学年 山口 優 さん【賞状】
 2 学年 加藤 輝 さん【賞状】
 3 学年 佐藤 優有 さん【賞状】
 山口 桜愛 さん【賞状】



令和5年度道志村教育協議会主催書きぞめ大会

教育長賞 山口 結友 さん【賞状】
 議長賞 佐藤 佳太 さん【賞状】
 村長賞 佐藤 舞桜 さん【賞状】



中学生優秀選手賞

日下部 紫龍 さん【賞状】



生徒の主体的な学びと教職員の指導により、今年度は県や南都留郡等でも大きな賞をたくさん頂きました。

謝恩会を開いてくれた三年生 →



